

令和4年度 授業評価アンケートに関する  
相互評価による指導・助言の為の  
自己評価報告書

令和4(2022)年9月  
長崎国際大学

## ◆授業評価アンケートの活用

**視点① 学生による授業評価アンケートの実施**

**視点② IR 業務を担当する者による分析**

**視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック**

### 1. 事実の説明及び自己評価

**視点① 学生による授業評価アンケートの実施**

令和 3(2021)年度は、学期ごとに授業の 11 回目～14 回目でアンケートを実施した。専任教員は、必ず一科目以上を選択して実施し、3～4 年程度で担当科目を全て実施することとしている。調査方法は、マークシート自記入式もしくは Web 方式を、担当教員が授業の実施方式等を鑑み選択している。アンケートの様式は、教養セミナー(1 年生、必修科目)、スポーツ実技科目、一般科目(講義型、語学型、実習・演習型)の 3 種類を作成している。設問は全学部共通で、設問数は 10～13 問程度として、自由設問を追加することが可能である。

前期は、調査科目数 305 科目、延べ履修者数 14,948 人、有効回答数 10,165 票、回答率は 68.00%であった。後期は、調査科目数 256 科目、延べ履修者数 12,841 人、有効回答数 9,349 票、回答率は 72.81%であった。

コロナ禍以前はマークシート自記入式で授業中に回答させていたので、平均回収率は 8 割から 9 割程度であったが、Web 方式(ポータルフォリオ上で 1 週間の回答期間)を導入してからは、マークシート自記入式と比べると平均回答率は下がっている。

**視点② IR 業務を担当する者による分析**

集計結果は、科目毎に各教員へフィードバックしている。フィードバックした結果は、Web(ハイブリッド授業評価システム)上で経年比較、学生の自由記述とテキストマイニングについて閲覧できる。また、自己点検・評価委員会では、アンケートの結果の概要及び授業形態毎、クラスサイズ毎、所属教員別、学生所属学科毎の授業の満足度集計及びテキストマイニングの結果等が報告され審議されている。

自由記述のテキストマイニングは、①授業の内容、②授業環境、③教員人物、④教員の教え方・学生指導について、⑤学生自身について、⑥その他の 6 分野、30 項目に分類して、それぞれ「肯定」「否定」「中立」「改善要望」に判別している。学生が肯定的に捉えていることや改善要望などを項目毎に示し全体で共有することにより、授業改善の資料としている。

前期集計での肯定的な意見は、教え方・説明の仕方・わかりやすさなどが 822 件、関心・興味・好奇心などが 480 件、教科書、テキスト以外のレジュメ・プリント・資料等についてが 392 件となっている。否定的な意見は、分かりやすさ・理解・難易度で 130 件、改善要望は、教科書、テキスト以外のレジュメ・プリント・資料等についてが 98 件となっている(後期分は資料参照)。

授業アンケートに関しては、各設問の評点も一つの評価指標であるが、学生の自由記述のテキストマイニング分析は、授業改善には有効な資料と考えている。

**視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック**

各教員は、集計結果を基に科目毎にアクションプランシートを作成することが義務づけられている。また、各学部では、一定の基準を設けて授業アンケートの集計結果と各教員による結果の分析であるアクションプランシートを資料として学部長面談を実施し、授業改善に努めている。

アクションプランシートは、(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策、(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法、(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策、(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策、(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感の 5 項目について記載することとしている。

学部長面接は、前期、後期に新着任の教員や授業アンケートの結果の低い教員を対象に実施している。面接には学科長および各学科の自己点検・評価委員も陪席し、面談の結果は、自己点検・評価委員が報告書にまとめ、自己点検・評価委員会に提出し共有している。

教員の顕彰の一つに授業アンケートの結果に基づくものを創設し、授業アンケートの結果によるベストティーチャーとして毎年 6 月教授会で顕彰を行っている。また、学部や教育基盤センターの企画でベストティーチャーの授業公開も必要に応じて実施している。

教育情報の公開、学生への結果のフィードバックとしては、ホームページ、学内のポータルフォリオ等で公表し、学生も結果を確認できるようにしている。

## 2. 改善・向上方策（将来計画）

IR 業務は、①調査設計、②データ収集、③データ集計・分析、④データ活用・報告と 4 つの局面が考えられる。授業アンケートにおいてまずは正しく授業評価に資するデータを収集することが大切である。その為にアンケートの設問設定、実施時期、実施方法(マークシート、Web)、回収率は重要となる。本学では、コロナ禍でマークシート自記入式から Web 方式との併用となり、マークシート自記入式と比較して回収率が下がっている。全体の評価に影響を及ぼす程度の低下率ではないが、学生の意見を聞く重要な調査であるので、できる限り多くの回答を得るように努める。今後、Web 方式の実施においては、授業時間内に回答させるなど、回答率の向上方策を検討する。

内部質保証の観点から、アンケート実施後、集計結果を各教員が分析・省察して授業改善に取り組むこと、それを学部や大学全体で推進していくことが重要である。その為に、正確で迅速な集計、またデータの経年比較、テキストマイニング等のデータの可視化により、データを改善の為に情報に変換しフィードバックしていく。

## 3. 関連資料

- (1) アンケートマークシート様式 3 種類(Web も設問内容は同じ)
- (2) 授業アンケート概要(前期、後期)
- (3) テキストマイニング全体集計(前期、後期)
- (4) 学部長面談報告書様式
- (5) アクションプランシート様式
- (6) ベストティーチャー賞規程